

年齢	年月日	出来事	主な出典先/備考
----	-----	-----	----------

生誕から徳山藩士伊藤湊の時代

* 歴史上の大きな出来事

1	1839 天保10年	1月18日	現周南市上御弓町に生れる。	伊藤家文書
24	1862 文久2年	6月6日	宗藩敬親公及び、元蕃公京に上るにあたり、従者となる。	志村嘉一郎資料
		12月12日	<高杉晋作、井上聞多、伊藤博文ら長州藩士による英国公使館焼打ち事件>	*
25	1863 文久3年	8月18日	<8月18日の政変(堺町御門の変)・七卿落ち>	*
		8月	会津・薩摩藩連合に京都から締め出され長州藩とともに帰国する。 <保守派台頭、富山源次郎、徳山藩内を掌握する>	志村嘉一郎資料 忠正公傳
26	1864 元治元年	3月3日	<井上唯一、富山源次郎用人本多真邸に放火する>	徳山市史史料有志詰問録
			富山の排斥を画策。保守寄りの商人を捕縛し、無量寺、徳応寺、善宗寺などに押しかけ、仏像などを破壊する。	徳山市史史料有志詰問録
		3月20日	<秋元館林藩、藩命により幕府と長州藩の調停役として、家臣岡谷繁實(鈕吾)を長州藩に送る。京を出発。>	館林双書
		6月5日	藩命を受け正使林麓、遠藤貞一郎と共に江戸へ上る。	兼崎燈堂墳墓掃苔録
		同	<新選組による池田屋事件>	*
		7月19日	<蛤御門の変(禁門の変)>	*
		7月21日	<幕府、長州藩追討を諸藩に命ず。第一次長州征伐>	*
		7月25日	<長州藩江戸屋敷没収の令>	忠正公傳
		8月5日	<馬関戦争。英米仏蘭四ヶ国艦隊、下関砲撃>	*
		8月9日	<富山源次郎襲撃事件>	忠正公傳
		8月12日	<児玉次郎彦、江村彦之進暗殺される。翌年1月にかけて七士の殉難>	徳山藩史
		8月14日	<井上唯一、御用屋敷にて正義派の一連の行状の糺問を受ける>	徳山市史史料有志詰問録
		9月4日	<庄原登美衛、客屋にて正義派の一連の行状の糺問を受ける>	徳山市史史料有志詰問録
		9月5日	<渡部新三郎、御用屋敷にて正義派の一連の行状の糺問を受ける>	徳山市史史料有志詰問録
		9月	一連の糺問により、伊藤湊の商人の捕縛、仏像破壊等の行為が発覚する。	徳山市史史料有志詰問録
		9月22日	宗藩に連座して徳山藩江戸屋敷没収される。	忠正公傳
		9月	湊、林、遠藤ほか在府の臣下は館林、安中、新見の三藩に幽囚される。	忠正公傳
11月	幕命により、幽囚の件にて秋元館林藩、徳山に使節2名を送る。毛利淡路守護んで調印する。	館林藩事績		
11月11日	<益田、国司、福原三家老、禁門の変の責任を取って切腹、斬首される>	*		
27	1865 慶応元年	1月	<高杉晋作ら絵堂戦に勝利、藩論を討幕へ一変>	*
		5月	<幕府、第二次長州征伐を発令>	*
		9月～	徳山藩有志血盟書に作郎兄伊藤節亮他230名が血判する。「私党を結び、俗論を主張するものは死せん」	徳山市史史料
28	1866 慶応2年	1月21日	<薩長同盟締結>	*
		6月7日	<幕府艦隊の周防大島への砲撃が始まる。四境戦争の始まり>	*
		6月11日	4月解放の命が下り、徳山藩士ら33人と共に、江戸を出帆、広島着。岩国を経て徳山に帰る。	徳山藩史
			同上の件、館林藩安館精相通称門追及卒三名を以て広島に護送する。	館林藩事績
		6月23日	結草団総監に任命される。阿武郡奈古、大井両村防御の為、同村農町民を率いる。	阿武町史上
	8月21日	<幕府、第二次長州征伐を中止>	*	
29	1867 慶応3年	10月14日	<大政奉還 続いて12/9王政復古の大号令>	*
30	1868 明治元年	1月3日	<鳥羽伏見の戦い。戊辰戦争の始まり>	*

英国留学の時代<以後矢嶋作郎>

30	1868 明治元年	10月	毛利元功の従者としてイギリスに留学する。矢嶋作郎と改名。	外務省記録
31	1869 明治2年	5月18日	<旧幕府軍五稜郭の戦いで降伏。戊辰戦争終結>	*

34	1872 明治5年	1月17日	ドイツ・フランクフルトに於いて新紙幣製造監督を拝命。日本最初の紙幣ゲルマン紙幣を製造する。	小野寺和夫資料
36	1874 明治7年	3月27日	ロンドン留学を終え帰国。	矢嶋家文書

官吏(国内)の時代

36	1874 明治7年	4月10日	補紙幣寮七等出仕となる。	矢嶋家文書
		5月7日	紙幣寮工場長に任命される。手彫龍切手、手彫桜切手製造にもかかわる。	大蔵省史料
37	1875 明治8年	2月	紙幣、切手等の功績により従6位に叙せられる。	矢嶋家文書
39	1877 明治10年		実業界に転身を決意して大蔵省を辞職。	矢嶋家文書

実業家の時代

39	1877 明治10年		<エジソン、白熱電球の改良に成功、普及の功績を残す>	*
41	1879 明治12年		東京訓盲啞学院竣工。山尾庸三らと設立にかかわる。	矢嶋家文書
42	1880 明治13年		東京貯蔵銀行創設。頭取を務める。	銀行変遷史
43	1881 明治14年		電燈事業の有望なることを看破し、英米の電燈会社に照会する。	東京電燈開業50年史
			同じく、当時、英国留学中の工学士石黒五十二氏に詳細の取り調べを依頼。	東京電燈開業50年史
44	1882 明治15年	3月18日	作郎、原六郎、大倉喜八郎他六氏発起人となり、東京電燈会社の設立を内務卿山田顕義に出願する。	東京電燈開業50年史
		5月	大阪紡績会社(現東洋紡)設立。発起人に名を連ねる。	矢嶋家文書
		7月	横山孫一郎氏一派と合同し創立仮事務所を京橋二丁目大倉組に設置する。	東京電燈開業50年史
		11月1日	東京銀座事務所前で電燈の宣伝の為、発電機によりアーク燈を点火する。電燈の一般公開は史上初。	東京電燈開業50年史
		12月14日	作郎他新たに九氏の発起人により、資本金20万円の東京電燈会社の設立を東京府知事に出願する。	東京電燈開業50年史
45	1883 明治16年	2月15日	東京府知事芳川顕正の名により東京電燈会社の創立を許可され、矢嶋作郎社長となる。	東京電燈開業50年史
		4月1日~	京都祇園一力亭の西角及び歌舞練場にて、宣伝の為、携帯した発電機により点火する。	東京電燈開業50年史
		4月	横須賀造船所にアーク燈発電機を設置。初めての企業点火となる。	東京電燈開業50年史
46	1884 明治17年	5月	大阪道頓堀の劇場の内外にアーク燈点灯のデモンストレーション、京阪人を驚かす。	東京電燈開業50年史
48	1886 明治19年	6月28日	内閣官報印刷場にエジソン式75燈用発電機を設置。官庁用白熱灯の初めなり。	東京電燈開業50年史
		7月5日	開業。京橋区に仮事務所を廃止し、新たに事務所を新設する。	東京電燈開業50年史
		9月	大阪紡績会社三軒屋工場に発電機を設置。わが国初の自家用発電である。	東京電燈開業50年史
		12月8日	技術顧問の藤岡市助を大学より迎え技師長に専任し、発電所の建設に備える。	東京電燈開業50年史
		12月20日	藤岡市助を伴い欧米に電気事業視察、あわせて新皇居の電燈設備、及び発電所建設用機器類等買い付け。	東京電燈開業50年史
			この年電球製造事業を開始する。我国、電球製造事業の初めなり。	東京電燈開業50年史
49	1887 明治20年	1月22日	当時の社交場たる鹿鳴館(舊華族会館)に移動式発電機を用い電燈を灯す。	東京電燈開業50年史
		4月20日	伊藤博文首相官邸の仮装舞踏会において電燈を点火する。	東京電燈開業50年史
		4月26日	井上薫外務大臣私邸へ明治天皇遊ばされ、団十郎の晴れの演技の際、舞台に点灯。天覧を仰ぐ。	東京電燈開業50年史
		6月11日	矢嶋作郎社長、藤岡市助技師長は用務を果して帰国。	東京電燈開業50年史
		7月25日	発電所建設資金調達の為、臨時株主総会開催。資本金を20万円より50万円に増加する。	東京電燈開業50年史
		9月15日	事務所手狭につき京橋区新肴町15番地に移転する。	東京電燈開業50年史
		10月1日	作郎、京阪地方に出張し、各地に電燈会社の設立を画策する。	東京電燈開業50年史
		10月	矢嶋の勧めにより神戸電燈会社設立(全国2番目)	東京電力30年史
		11月	矢嶋の勧めにより京都電燈会社設立(全国3番目)	東京電力30年史
		11月21日	第二電燈局(火力発電所)落成。29日より東京郵便局、今村銀行、日本郵船会社等に内外燈の供給開始。	東京電燈開業50年史
50	1888 明治21年	2月5日	大阪電燈会社設立(全国4番目)	東京電力30年史
		6月28日	第一電燈局(火力発電所)落成。	東京電燈開業50年史
		8月7日	宮城外三見付半蔵門より乾門に至るアーク燈建設の御用を承る。	東京電燈開業50年史

50	1888 明治21年	10月1日	第五電燈局（火力発電所）落成する。	東京電燈開業50年史
		10月28日	宮城外7ヶ所燈工事落成。同30日、新皇居の電燈工事落成し、翌年1月6日より点灯する。	東京電燈開業50年史
		12月20日	第三電燈局（火力発電所）落成。	東京電燈開業50年史
51	1889 明治22年	7月6日	臨時株主総会において資本金を50万円より100万円の増加を議決する。	東京電燈開業50年史
		4月18日	徳山・共栄舎の株主総会において、選挙により委員に専任される。	大阪毎日新聞
		12月15日	東京電燈請負による名古屋電燈会社の工事落成し開業する。	東京電燈開業50年史
		12月21日	電燈の需要が相次ぎ、五局（火力発電所）開設。建設計画はしばらく完了とする。	東京電燈開業50年史
52	1890 明治23年	1月15日	東京電燈会社と日本電燈会社合併資本金30万円増加し130万円に。	東京電燈開業50年史
		3月1日	合併後の役員会で、作郎、社長に再任される。	東京電燈開業50年史
		4月	白熱電球事業を藤岡市助、三吉正一氏らに譲渡する。白熱舎（後の東芝）が創設される。	東京電燈開業50年史
		5月4日	内国勸業博覧会が開催された上野公園において、我が国で初めて、電車を走らせる。	東京電燈開業50年史
		上期	第四電燈局（火力発電所）落成。	東京電燈開業50年史
		6月17日	東京工業学校（現東京工業大学）の商議委員を拝命する。	文部省第18年報
		8月28日	警視庁より電柱広告の許可をもらう。電柱広告の初めなり。	東京電燈開業50年史
11月	我が国初の電力供給の事業として、新設、浅草凌雲閣のエレベーター（12階）の運転を開始する。	東京電燈開業50年史		
53	1891 明治24年	1月20日	未明、衆議院政府委員室より出火、帝国議事堂焼失。 火災の原因は漏電と発表され、宮中の電燈一斉休止。一般家庭の廃止続出する。 作郎、電気による火災ではないと、失火報告訂正願いを曾彌書記官に提出する。	東京電燈開業50年史 東京電燈開業50年史 東京電燈開業50年史
		2月15日	矢嶋作郎社長以下役員総辞職する。	東京電燈開業50年史
		9月22日	第一回衆議院議員野村恒造辞職に伴い、補欠選挙当選。下松に居を構える。	voice japan他
			金子正煥、入江石泉、赤松照憧らと和歌の温知会を創立。	徳山市史上
54	1892 明治25年	2月15日	第二回衆議院議員選挙落選。	voice japan
		2月20日	祐綏神社に樹木奉納。石碑建立。	祐綏神社に現存
55	1893 明治26年	7月	石工、有田金槌に下松港入り口の洲鼻に灯明台を作らせる。	下松に現存
56	1894 明治27年		磯部家にかわり塩田の経営者として報告されている。（20年代に代わったと思われる）	下松市史
		10月	<広島電燈会社設立>	東京電力30年史
57	1895 明治28年		<下松屋磯部（1166番地）広大な屋敷を売り払う>	河村蒸一郎資料
58	1896 明治29年		子爵渡辺昇、大野直輔らと東京正則英語学校設立	矢嶋家文書

歌人の時代

60	1898 明治31年	10月	矢嶋作郎主宰名月會により周南市の善宗寺に中山三屋女の墓碑建立。	善宗寺墓地
61	1899 明治32年	9月10日	徳山藩学者桜井魁園の歌集「秋園集」を発刊。当時の作郎の住所は周防國都濃郡豊井村百七十四番。	徳山市史上
65	1903 明治36年	9月	澄泉寺、大成寺境内より下松東豊井宮ノ洲に移す。矢嶋家の菩提寺とする。	都濃郡誌
66	1904 明治37年	8月15日	明月會会員歌集「桂露」発刊（山本彦兵衛編纂兼発行者）	京都にて印刷発行
		11月12日	全額自費にて澄泉寺再建。妙心寺派二等大和尚地の資格を受ける。	清韻集
67	1905 明治38年	4月1日	歌集「昭代集」発刊。鎌田正夫共編。2編は大正7年、嗣子専平が発刊する。	国会及び、田布施図書館
		7月30日	澄泉寺再興を表し、本山妙心寺管長東海猷禪より開山国師御繪傳一軸他賜る。	東海猷禪表彰書状
		10月	宮島巖島神社に奉納。石碑建立。	宮島巖島神社に現存
69	1907 明治40年	10月17日	中山三屋女33回忌に歌集「浮木廻亀」編纂、桂園派歌人高崎正風に序文を依頼し自費出版する。	浮木の亀
70	1908 明治41年		明治天皇の宮中御歌会始めに招待される。	矢嶋家文書
		4月24日	桂城山澄泉寺再興を記念し、歌集「清韻集」を発刊。	清韻集
73	1911 明治44年	11月7日	永眠。東京赤坂、臨濟宗妙心寺派光林寺に眠る。	矢嶋家文書